

みんなの暮らしを支える

建設業

“地域の守り手”、建設業。かつての3K(きつい、汚い、危険)のイメージは今、大きく変わりつつあります。県では、国や建設業界と一体となり、新たな担い手の確保に向けたさまざまな取組を展開しています。今回はこれらの取組とともに建設業の「現在」をご紹介します。あなたも地域を支える一員になってみませんか。

CCI(栃木県魅力ある建設事業推進協議会)キャラクター「けんたくん」



タイトル背景写真 撮影=山崎 エリナさん

なぜ建設業が「地域の守り手」？ — 社会の生活基盤を創り・守る立役者

地域を創る

皆さんが普段通っている道路や橋。駅やスーパーといった建物。生活の中で当たり前に使っているこれらの施設を造っているのは、建設業です。

地域を守る

災害発生時には、道路をふさぐ土砂の撤去や決壊した堤防等、被災した施設の応急復旧作業に当たります。

災害時 ➔

地域を守る

完成した施設は、年月の経過により老朽化します。放っておくと、壊れて危険に。これを未然に防ぐため、施設の計画的な維持管理を行っています。

Check! 「地域の守り手」が減少

建設業就業者数は建設投資額の減少と共に減り、ピーク時から約27%も減少。投資額は平成24年度以降増加に転じているにもかかわらず、就業者数はほぼ横ばいの状況です。

また、就業者の約35%が55歳以上で29歳以下は約11%と他産業に比べて高齢化が進行。引き続き「地域の守り手」として役割を果たすためには将来の建設業を支える担い手の確保が急務となっています。

建設投資額と就業者数の推移

出典：国土交通省「建設投資見通し」、総務省「労働力調査」
 ※投資額：建築工事と土木工事の総額
 H29まで実績、H30・R1は見込み、R2は見通し
 ※就業者数：年平均。H23は推計

“3K”から“新3K”へ — 人手不足の解決に向けて

県では、建設業のイメージアップを図るとともに新3K(給与が良い、休暇が取れる、希望が持てる)の実現に向け、建設業界と共にさまざまな取組を行っています。

- 働き方改革の取組**
- 県が発注する工事では、受注者が現場の労働環境改善に取り組めるよう、以下の施策を推進しています。
- 週休2日制工事 ➔ 現場に合わせた工期の設定や現場管理費などの必要経費の補正を実施し、計画的な休暇の取得
 - 快適トイレの導入 ➔ 鏡付きの洗面台や照明を備えた仮設トイレの設置経費を計上し、現場で働くすべての人が快適に利用できるトイレの設置
- 生産性向上の取組**
- ICT活用工事 ➔ GPSを搭載したICT建機による自律施工など新技術を活用することで生産性が向上し、技術者の負担を軽減



提供：株式会社トプコン

女性技術者の活躍・定着促進の取組

女性技術者も生き生きと活躍しており、平成28年度には現場で働く女性をメンバーとした「とちけん小町魅力向上委員会」を発足。女性視点の現場環境改善などを実施しています。

「とちけん小町」ロゴマーク

語り切れない建設業の魅力… YouTubeでご紹介!

YouTube 栃木県県土ちゃんねる

2 栃木県のさまざまな情報をTwitter「栃木県広報課」(ユーザー名は@pref_tochigi)、LINE「栃木県」(IDは@pref_tochigi)で配信中。県の最新情報をチェック!

若手技術者に聞く — 建設業。働いてみてどうだった？

「地域の守り手」として活躍するお二人に建設業についてお話を伺いました。

榎本 菜月さん
榎本建設株式会社

とちけん小町魅力向上委員会メンバー。今年度、女性初となる栃木県優良建設工事技術者表彰を受賞

— ご実家が建設会社とのことですが、自然な流れで今の仕事に？

いいえ。大学では心理学を専攻していましたが、今の仕事に就こうとしたときは、家族から大反対されました。それでもこの仕事を選んだのは、「社会のため、地域のため、人のため」という大きな役割を担える存在として「建設業はカッコいいのでは」と考えたからです。

— 建設業の“3K”に対する不安は？

学生時代には3Kのイメージがありました。しかし、それよりもやりがいや達成感を味わえる仕事ではないかと思いこの業界に飛び込んでみました。

今の会社は余程のことがない限り残業はないし、休日にも十分にあり。意外ときれいな人が多いし、労働環境は一般的なイメージよりもはるかに良いと思います。

— 仕事とプライベートについて教えてください

仕事では監督として現場を管理し、家庭では家事・育児をしています。家族と過ごす時間も大切にしており、先日は私が工事に携わった遊歩道や栈橋を子どもたちと散歩してきました。

— 仕事の面白みはどんなところですか？

工事現場の仕事は一人ではできません。一つの工事をたくさんの方と協力して行うため、完成した際の喜びはひとしおです。工事の途中でも全員でアイデアを出し合い、最適解を導き出すプロセスに面白さを感じます。

— なぜ建設業を選んだのですか？

高校の土木学科に進学し、勉強していく中で興味を持ちました。将来的に自分のやったことが形として残っていく仕事をしたいと思い、建設業を選びました。

大森 啓汰さん
川上建設株式会社

建設業に従事して7年。今年度、最年少で栃木県優良建設工事技術者表彰を受賞

— 建設業の“3K”に対する不安は？

もちろんありました。しかし、仕事を続けていくにつれ、それ以上に感じるこの仕事の達成感や充実感に魅了されています。

— その達成感・充実感を具体的に教えてください

自分が施工した道路を地域住民の方々や、登下校する小学生が利用している姿を見た時。街づくりをしている達成感や社会貢献をしている実感が湧いてきます。やって良かったとやりがいを感じます。

— これから職業選択のタイミングを迎える方へ

どの仕事も不安や負のイメージは付き物だと思います。しかし、それ以上の魅力があります。いろいろな仕事に興味を持ち、今の自分にできることに取り組んでみてください。その取組が後の自分の仕事の自信につながっていくと思います。

【問合せ】県技術管理課 028-623-2421